

あおもり漁連

植村正治氏 書

甦れ!! 協同組合運動

No.
159



定置網のマグロ水揚げの様子（深浦漁協）

CONTENTS

平成26年度 青森県漁連通常総会開催	1
青森県さけます増殖流通振興協会通常総会開催.....	4
「浜の活力再生プラン策定推進事業」・「省燃油活動推進事業」説明会開催.....	5
県内漁協組合長就任報告.....	6
共販推進会議開催.....	7
青森県漁師自慢の魚＜プライドフィッシュ＞.....	9
「ホタテの日」記念イベント.....	11
水産に関する主な動き（1月～7月）.....	12

2014.8

資源・金融・共済の三本柱推進

平成二十六年
度
(第六十五事業年度)

青森県漁連通常総会開催

去る、六月十八日、青森県水産ビル七階大会議室において、青森県漁連平成二十六年(第六十五事業年度)通常総会を開催し、平成二十五年決算、平成二十六年事業計画、役員選任に関する件など六議案が審議され、原案通り承認決定された。



開催にあたり、赤石会長が次の通り挨拶を述べた。

太平洋側の漁業・漁村に壊滅的な被害を与えた東日本大震災から三年三ヶ月が経過致しました。未だ故郷を離れ、不自由な生活を強いられている方々に対し心からお見舞いを申し上げます。この震災により発生した福島第一原発事故の影響や異常気象の頻発、海外から流れ込む大気汚染物質等、地球規模の自然環境悪化が懸念されます。

また、原油価格の高止まりと円安により燃油と漁業資材等の価格が高騰し、漁業者が休業のみならず廃業すら覚悟しなければならぬ深刻な状況であることから、昨年五月二十九日に全漁連が主体となり「我が国漁業の存続を求める全国漁業代表者集会」が開催されました。集会には全国から漁業者代表約二、五〇〇名、本県からも五十六名が参加し、国に対し全国の漁業者が置かれている現状、そして浜の窮状を訴え、今を救うための緊急対策を要請致しました。この結果、新たな緊急支援対策として「漁業用燃油緊急特別対策」が施行され、セーフティーネット構築事業の拡充、さらには燃油使用量に応じた緊急助成の予算化を実現することが表明されたところであります。

しかし、我々JFグループの進む道筋は依然として険しく、漁業が生き残りのための大きな分岐点にあることには変わりはありません。この

難局を乗り切るため、引き続き関係当局に対する行動を展開して参りますので、皆様には今後ともご協力をお願い致します。

さて、本県の漁業につきましては、ホタテのへい死・成長不良の影響や、スルメイカをはじめとする本県主要魚種の漁獲不振と魚価の低迷、燃油・漁業資材等の価格上昇など、さらに厳しい状況下にあります。

このように漁業経営が極めて厳しい状況にあることを踏まえ、沿岸・沖合漁業の共存共栄が可能な操業体制構築による「漁業資源の確立」、漁業者の所得安定のための「漁業金融の円滑化」、「漁業共済加入促進」の三本柱による循環型漁業構築を強力に推進し、これまで以上に資源管理型漁業の推進と漁業経営の安定と向上に努める所存でございます。

尚、恒例により、会員各位に対しましては、業務部門で奨励金及び施設助成金等で約三、九〇〇万円をお支払い致しております。このことは、各事業において効率的・合理的な運営を心がけ、鋭意努力して参りましたこともさることながら、会員皆様方のご支援・ご協力の賜と心より深く感謝申し上げます。

終わりに、新年度においても厳しい経営を強いられるものと思われしますが「一人一人の力はあまりに小さいが和して団結するとき偉大である」との協同組合の原点に立ち返り、本県漁業・水産業の安定と発展に寄与すべく業務に邁進し



松宮県水産局長祝辞



赤石会長挨拶



会員組合長



横内議長

て参ります。特段のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

続いて、来賓を代表して、三村申吾青森県知事（松宮隆志水産局長代読）より祝辞があり、その後、横内憲悟青森市漁協組合長を議長に選出し議事に入った。

議事では、第一号議案の平成二十五年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、注記表及び剰余金処分案に関する件を始めとする六議案について審議が行なわれ、いずれも原案通り承認決定された。

また、通常総会終了後、緊急組合長会議が開催され、水産日本の復活の実現に向けた燃油高騰緊急対策の継続・強化を求める特別決議（案）及び漁業用軽油にかかる軽油引取税の免税措置恒久化の実現を求める特別決議（案）が満場の拍手をもって採択された。

{平成26年度事業計画}

基 本 方 針

漁業を取り巻く情勢がさらに厳しさを増す中、福島第一原発事故の汚染水の処理や地球温暖化の影響による異常気象の頻発、海外から流れ込む大気汚染等、地球規模の自然環境悪化が懸念されております。

また、昨年は鮮魚介類の水揚げ減少、異常潮流や大量付着物等によるホタテのへい死と成長不良、燃油と漁業資材の高騰により、極めて厳しい状況でありました。

このように大変厳しい時こそ、会員、漁業者、漁業系統団体のＪＦグループが一丸となり、協同組合の原点に立ち返り、「団結」と「協調」をもって漁業の明るい未来に向かい、総力を結集して取り組んで行くべきと考えます。

本県の漁業につきましても、漁獲及び魚価の低迷等で、依然として漁業経営が極めて厳しい状況にあることから、沿岸・沖合漁業の共存共栄が可能な「水産資源管理体制の確立」漁業者の所得安定のための「漁業金融の円滑化」・「漁業共済の加入推進」の三本柱の実践による循環型漁業構築を強力に推進するとともに、燃油や資材等の価格上昇が漁業経営を圧迫していることから、省エネ対策等の推進、生産コストの削減、漁業経営安定対策事業の普及推進等に努めるほか、漁業経営指導や漁政対策等にも積極的に取り組み、漁業者の経営安定、そして漁協経営基盤の強化に取り組んで参ります。

そのほか、関係機関と連携し、本県産魚介類の消費拡大やブランド化を目指した取り組みを展開し、産地価格の向上を図って参ります。

記

<重点推進事項>

1. 水産資源の管理・確立を図るための諸対策
2. 漁協の経営基盤の強化並びに漁業金融の推進
3. 漁家・漁協経営の安定・向上と漁業共済加入促進
4. 水産物の価格向上及び付加価値向上
5. 漁業用石油類及び資材類の安定供給
6. 各種漁業の生産基盤強化及び増養殖事業の推進
7. 水産物及び水産製品の消費拡大
8. 水産物の衛生管理
9. 漁業環境保全
10. その他漁業者及び漁協の経営に資する事項並びに漁業振興に資する事項

採択された特別決議文

水産日本の復活の実現に向けた燃油高騰緊急
対策の継続・強化を求める特別決議

水産物消費の減退と価格下落による大幅な収入の減少に加え、コストの多くを占める燃油価格の高騰によって、我が国漁業が危機的状況に追い込まれている中、政府・与党の連携により、昨年7月より「漁業用燃油緊急特別対策」、本年2月の平成25年度補正予算において「漁業コスト構造改革緊急対策」が実現した。

我々漁業者は、これらの対策を活用し、浜の活力再生プランの実践に取り組み、燃油価格に振り回されない強い漁業の構築に取り組んでいく。

しかしながら、未曾有の危機に直面している浜の再生は、一朝一夕で成し遂げられるものではなく、一定の期間を要する。

福島第一原発事故による風評被害をも克服し、真に水産日本の復活を目指すためには、漁業コストの太宗を占める燃油対策の継続・強化が不可欠であり、コスト低減のための次の政策の実現を強く求める。

記

1. 漁業経営セーフティーネット構築事業および平成26年度末限りとされている漁業用燃油緊急特別対策の継続・強化を図ること。
2. 平成25年度補正予算で措置された「省燃油活動推進事業」ならびに「省エネ機器等導入推進事業」をはじめとした漁業用燃油高騰・コスト低減対策の継続と所要額の確保を図ること。

以上、決議する。

平成26年6月18日

青森県漁業協同組合連合会緊急組合長会議

漁業用軽油にかかる軽油引取税の免税措置
恒久化の実現を求める特別決議

燃油や資材価格の高騰、漁獲量の減少や魚価の低迷など、漁業を取り巻く環境は極めて厳しい状況にあります。

加えて、東日本大震災により我が国漁業は壊滅的な被害を受け、復興に向けて全国の漁業者は一丸となって取り組んでいるところですが、原発事故の風評被害等によって、水産物の消費の減退と魚価の低迷については一層深刻の度を増しています。

このような中、燃油価格はかねてからの高騰に加え、昨今の円安の進行により急激に上昇しており、結果として廃業を迫られる漁業者も出現しております。

燃油は操業において不可欠なエネルギーであります。漁業においてはコストに占める燃油費の割合が極めて大きく、燃油価格の上昇は直ちに漁業経営を圧迫することとなります。漁業者は省エネ操業に取り組むなど、日々努力を重ねているものの、事態は我々漁業者の努力の範疇を超えております。

このような状況の下、軽油引取税の免税措置が打ち切られ、リッター当たり32円10銭もの税金が課されれば、多くの沿岸漁業者が直ちに廃業に追い込まれることは必至です。

零細な沿岸漁業者は主に軽油を使用しており、漁業経営を維持し、水産食料の安定供給並びに多面的機能の維持増進を図るため、軽油引取税の免税措置の恒久化が不可欠であり、この実現につき特段ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

記

漁業に使用する軽油にかかる軽油引取税の免税措置を恒久化すること

以上、決議する。

平成26年6月18日

青森県漁業協同組合連合会緊急組合長会議

役職名	氏名	所属漁協
代表理事会長	赤石 憲二	泊
副会長理事	三津谷 廣明	平内町
専務理事	小出 政明	員外
理事	角田 順一	下前
理事	濱 端 廣文	大間
理事	木 浪 昭	外ヶ浜
理事	川 村 敏博	小田野沢
理事	二 木 春美	横浜町
代表監事	工 藤 伍郎	十三
監事	山 口 隆治	後潟
監事	岡 沼 明見	八戸みなと

通常総会終了後の理事会において、赤石憲二理事（泊漁協）が代表理事会長に再任された。また、役員の新体制は以下のとおり決定された。

青森県漁連役員新体制

平成26年度 青森県さけます増殖流通振興協会通常総会 開催

7月28日、青森県水産ビルにおいて、平成26年度青森県さけます増殖流通振興協会通常総会が開催され、平成25年度収支決算、平成26年度事業計画など全6議案が原案通り承認決定された。

サクラマス協力金の件は、本県のサクラマス漁獲量は、平成21年度まで約2万トンで推移していたが、平成22年度以降、3万トン前後に増加しており、ふ化場のサクラマス幼魚放流効果と思われる、今後の放流事業の継続のため、漁業者が漁獲したサクラマス水揚げ金額から協力金1%の拠出をお願いし承認された。

また、被災海域種苗放流事業の件は、平成23年3月11日の東日本大震災の発生で停電となり、県内ふ化場では、飼育中のサケ稚魚を適サイズ前であったが緊急放流した。この稚魚が今年4歳魚として回帰するが、適サイズ前の放流であったことから、回帰率が減少することが予想され、今年度の本県サケ稚魚放流計画1億3千万尾の計画達成のため、沿岸漁業者に海産親魚をふ化場に提供して戴くをお願いし承認された。

総会終了後、青森県産業技術センター内水面研究所の相坂主任研究員を講師に招き、「サケ増殖事業の現状と資源動向について」講演が行われた。



挨拶を述べる赤石会長



祝辞を述べる松宮県水産局長



議案を審議する会員



講演会

「浜の活力再生プラン策定推進事業」 並びに「省燃油活動推進事業」説明会開催

去る七月八日水産ビルに於いて、漁協と市町村の担当者、系統団体職員を含めた一〇八名参加のもと、国と全漁連から説明者を招き「浜の活力再生プラン策定推進事業」並びに「省燃油活動推進事業」への早期取組と事業活用に向け説明会を開催した。

「浜の活力再生プラン策定推進事業」とは

各浜が現状の問題・課題を認識した上で、漁業所得の向上と地域の再生を図るための「プラン」策定に係る経費に対して支援する事業である。

特に、国の関連事業の活用に際して、「浜の活力再生プラン」の策定が必須要件、若しくは優先採択要件とされる。

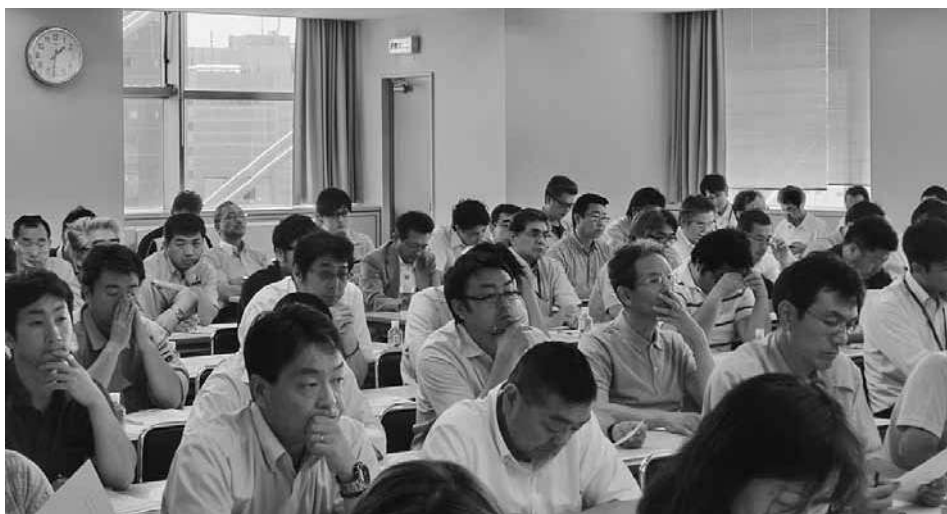
「省燃油活動推進事業」とは

セーフティネット構築事業の特別対策への加入者が対象者であり、セーフティネット構築事業における補てん金に加え、「省燃油活動」を行うグループに対して、燃油使用量に応じて七円、または十円を支援する事業である。

初めに、主催者を代表して青森県漁連小出専務より、「本日説明頂く事業については、昨年五月にJFグループが一丸となり『漁業の窮状』を国、国民に訴える運動を行った結果、国が漁業者の要望に応えて、燃油高騰対策の第二弾として新たに創設した『緊急対策』である。特に、『緊急対策』の目玉である『浜の活力再生プラン策定推進事業』については、『漁業者自らが、浜を再生させるという意識を持つて』早急にプラン策定に取組んで頂きたい。」と挨拶した。

「浜の活力再生プラン策定推進事業」の説明においては、水産庁木島課長より、「国はこれまで、漁業者の要望に対して様々な対策を講じてきたところである。

しかし、各浜の状況はそれぞれ違い、実態に合った対策が必要であることから、この事業を



説明会参加者

創設した。

『浜の活力再生プラン』を策定していない地区は、現在ある水産関連事業も含めて今後の事業も活用できなくなる可能性があるため、九月までに『プラン』を策定するよう。説明された。引き続き、全漁連高浜室長より「プラン」策定の考え方について、青森県野呂課長代理より、本県の事業活用の進捗状況について説明された。

「省燃油活動推進事業」については、漁業経営安定化推進協議会石山事務局長と全漁連田中次長より、事業の概要説明と今まで寄せられた



説明する水産庁木島課長

<本県の事業活用状況 H26. 7. 8 現在>

「浜の活力再生プラン策定推進事業」

53 J F の内、30地区15市町村34 J F が取り組み中

「省燃油活動推進事業」

S N 事業特別対策実施35 J F の内、27地区29 J F 実施中

疑義に対する回答があり、事業の適正かつ積極的な活用の推進がなされた。

県内漁協新組合長就任報告

漁 協 名	新組合長名	就任月日	前組合長名
深 浦	山 本 幸 宏	H26. 3. 25	森 長 保
竜 飛 今 別	野 土 一 公	H26. 4. 25	伊 藤 逸 雄
田 名 部	橋 本 幸 雄	H25. 11. 14	佐 賀 義 孝
関 根 浜	成 田 士 郎	H26. 6. 22	葛 野 繁 春
六ヶ所村海水	橋 本 兼 蔵	H26. 5. 14	高 橋 義 経
市 川	木 村 義 博	H26. 3. 27	木 村 清 吾

平成二十六年 度 西北・下北地区共販推進会議 開催

四月十九日、ホテルサンルート五所川原にて、「西北地区共販推進会議」、五月二十四日、プラザホテルむつにて、「下北地区共販推進会議」が初めて開催された。魚価低迷や漁獲量減少・燃料の高騰など漁業者を取り巻く環境や、経済の停滞・流通の多様化など買受業者を取り巻く昨今の環境を共に認識し、互いの経営安定に向け少しでも良い方向性を見出すため、県漁連・組合・買受業者間で活発な議論が交わされた。

「開催日時・場所」

西北地区…平成二十六年四月十九日（土）

午後二時

ホテルサンルート五所川原

「萬葉の間」

下北地区…平成二十六年五月二十四日（土）

午後三時

プラザホテルむつ「プラザホール」

むつ湾地区…平成二十六年八月開催予定

西北地区共販推進会議

案件

- 1) 県漁連共販取扱実績について（日本海・海峡地区）
- 2) 西北地区鮮魚規格表について
- 3) 鮮魚介類の流通及び販売に係る協議について



県漁連並びに各組合職員



買受業者

下北地区共販推進会議

案件

- 1) 県漁連共販取扱実績について（海峡・太平洋地区）
- 2) 下北地区鮮魚規格表について
- 3) 鮮魚介類の流通及び販売に係る協議について



県漁連並びに各組合職員



買受業者



挨拶する赤石会長



各組合職員並びに買受業者

また、推進会議における意見を受け、七月七日、六ヶ所村の泊漁業協同組合旧事務所三階大会議室において「下北・三八地区昼イカ入札時間に係る意見交換会」が開催されるなど、意見交換の場がさらに広がりを見せている。

青森県 漁師自慢の魚

《プライドフィッシュ》 発進!

プライドフィッシュとは……?

近年、水産物の消費は大幅な減少を続け、魚価の低迷と相まって水産業界全体に大きな影響を与えています。

水産庁においては、ファストフィッシュ（気軽・手軽・簡便化等、消費者の「今」の食生活の動向を踏まえた商品）の推進を中心に、消費拡大に向けた官民協同の取組である「魚の国のしあわせプロジェクト」を展開し、消費者の水産物への関心を高める等、大きな成果をあげています。

ファストフィッシュの伸長に見られるように、生活様式の変化等から調理の簡便化に資する商品の需要が高まる一方で、週末には「ちよつとおいしいもの」を求める購買層も多く存在し、景気回復と相まって増加傾向にあります。

しかし、魚のおいしさや本当の魚を直接消費者に伝えてきた鮮魚店の減少等により、消費者は「価格」のみに偏重した消費行動となり、水産物全体の低価格化を招くとともに本物のおいしい水産物を求める中高年層を中心とした消費の減退にも影響を与えています。

このようなことから、消費者に再び本物の水

産物の価値を認識してもらい、消費を喚起していくため、各都道府県のJFグループが自信をもって勧める、「漁師自慢の魚」を季節毎に選定し、本当の魚のおいしさや旬について、全国的に情報発信し、PRイベント活動を通じて広く消費者に知ってもらい、食べてもらうことで、おいしい魚をたべた時の感動を提供していく取組を展開します。

また、6月2日から8県域（JF青森漁連・JF千葉漁連・JF静岡漁連・JFいしかわ・JF兵庫漁連・JF山口・JF高知漁連・JFおおいの）の《プライドフィッシュ》情報コンテンツをHP（ホームページ）で公開し、順次全国展開します。

平成二十六年 《青森県のプライドフィッシュ》 の取組み 春夏秋冬

陸奥湾ホタテ：柔らかく肉厚、

まろやかな甘

み！陸奥湾の豊

かな恵みが生ん

だホタテ貝！



陸奥湾のホタテは、養殖といっても人工的に餌を与えるのではなく、陸奥湾の中で自然に発生した植物プランクトンなどを食べて成長しています。

陸奥湾には八甲田山系の深いブナ林から清らかで栄養豊富な水が注がれていることで、餌となる植物プランクトンも豊富です。

この恵まれた自然環境の中にある陸奥湾で、漁業者が一枚一枚大切に育てているホタテ貝は全国どこにもないまろやかな甘味があり、その味は絶品です。

深浦マグロ：日本海深浦マグロは、ほどよい脂ときめ細やかなしっとりした赤身が特徴！

深浦マグロは、冬マグロと比べやや小ぶりですが、ほどよく脂がのった赤身が特徴であり味の良さに定評があります。さらに漁期も長いいため新鮮なマグロを長期間楽しむことができ、また、価格もリーズナブルです。

その深浦マグロを広く知ってほしいという思いから、町を挙げて取組んで出来たのが、新ご当地グルメ「マグステ丼」です。



【マグステ丼】



【イベント風景】



【イベント風景】



【広場の風景】

ヒラメ…漁獲量全国有数の

ヒラメ！

青森県の魚に指定されているヒラメ！



本県のヒラメは全て天然物

で、その天然ヒラメを活かしブランド化を進めているのが青森天然ひらめ協議会です。

協議会では、生きたまま漁獲された天然ヒラメのストレスを除くため七日～十日間、暗くした水槽で安静蓄養します。

そうすることによりストレスで失った旨味成分イノシン酸を回復させます。更に活

け締め後、四十八時間後が最も旨味成分が多いことから、注文を受け食べる日時に合わせて活け締めし、産地漁協から料理

店等に直接届けられます。

この処理を行ったもの

のを「青天ひらめ」ブランドとして推進しております。

また、日本海の鰯ヶ

沢町では、地域特産の極上ヒラメをヅケにし、たっぷりとご飯にのせた新ご当地丼「ヒラメのヅケ丼」も町を挙げてブランド化に取り組んでいます。



【青天ヒラメ】



【極上ヒラメの刺身】



【鰯ヶ沢ヅケ丼】

ホッキ…北国青森の冷たい海で

育ったホッキ！

適度な歯ごたえと独特の甘みが特徴！



青森県のホッキは、八戸から三沢にかけて南北に弓なりにのびる北浜海域で漁獲されます。

その北浜海域の四漁協（八戸みなと、市川、百石町、三沢市）で組織する「北浜ほっき貝資源対策協議会」は、漁

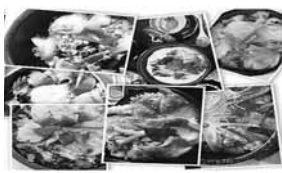
期・操業時間・一日の水揚量・稚貝放流など資源保護対策を行っています。

ホッキは北海道が有名ですが北浜海域で獲れるホッキの特徴として、北海道の身は茹でると赤色になるが北浜海域産はピンク色です。また、その品質や美味しさから首都圏の市場で高い評価も受けています。

そのホッキを手軽にもっと沢山の方々へ味わって頂きたいという想いから、三沢市では地域を挙げ特産のホッキを使用した、ご当地丼「ほっき井」の開発に取組み、今現在、市内三十店舗以上の飲食店で提供されています。



【冬の味覚 ホッキの刺身】



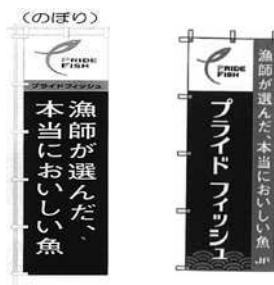
【ホッキ丼】

《青森県のプライドフィッシュ》 春夏秋冬 選定！

青森県の《プライドフィッシュ》については、魚貝類のPR活動を町ぐるみで積極的に取り組んでいることと、またその町が一体となり地場産魚介類を使用した企画メニュー（ご当地グルメ）の開発・ブランド化を図り、地場で水揚げされ商品化されたものを地場で消費することに取組んでいるものを選定しました。

登録された青森県のプライドフィッシュは、プライドフィッシュ公式HP（ホームページ）にて全国へ発信され、広く消費者に知って食べていただき、町の活性化と地場産の魚介類の価値アップに繋がっていきます。

登録した店舗には、プライドフィッシュ登録証が発行される他、販促資材等も配布されます。





平成26年度 「ホタテの日」記念イベント開催

青森ホタテのPRと消費拡大のため、青森県漁連とむつ湾漁業振興会は、平成10年度に毎年6月18日を「ホタテの日」と制定し、これを記念して、平成11年度から記念行事を行っている。

今年は、青森県ほたて流通振興協会、ほたて広場運営協議会、平内町地域協議会との共催により、6月22日（日）に平内町の「ほたて広場」を会場に開催した。

開会式では、三津谷むつ湾漁業振興会長の主催者挨拶、船橋平内町長並びに県水産振興課吉田課長の祝辞に続き、秋田県湯沢市の小町娘が和歌を披露した。

続いて、ステージ横のテントにおいて、来場者先着1,000名にベビーホタテと、記念のウチワが無料で配られた。



挨拶をする三津谷むつ振会長



祝辞を述べる山田平内町副町長



祝辞を述べる吉田水産振興課長



秋田県湯沢市 小町娘



無料配布に並ぶ来場者



ベビーホタテの無料配布



記念ウチワの無料配布



貝焼ほたて試食



貝焼試食の列

ほたて広場正面入口前では、ほたて貝焼きの無料試食コーナーが大人気で、長い行列が続いていた。

また、ステージでは、ほたて太鼓、スコップ三味線、ゆるキャラとゲーム大会、フラダンスショーなどが行われ、イベントは終日大いに賑わっていた。

水産に関する主な動き (1月～7月)

1月	事 項	場 所
6日(月)	仕事始め・ほたて生産販売関係者新年祝賀会	青 森 市
20日(月)	役員選任に係る合同検討委員会	青 森 市
22日(水)	青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会	青 森 市

2月	事 項	場 所
3日(月)	全国漁連(県漁協)・信漁連会長、漁済組合長合同会議	東 京 都
3日(月)～4日(火)	本会監事会、監査会	青 森 市
7日(金)	青森県漁協青年部連絡協議会 通常総会	青 森 市
10日(月)	福島第一原発事故による風評被害賠償請求に係る説明会	青 森 市
19日(水)	漁業用燃油緊急特別対策及び浜の活力再生プランに係る説明会	青 森 市
24日(月)	本会理事会	青 森 市
26日(水)	青森県定置漁業協会 通常総会	青 森 市
26日(水)	青森県原子力施設環境放射能等監視評価委員会	青 森 市

3月	事 項	場 所
4日(火)	第3回青森県漁協組合長会議	青 森 市
4日(火)	本会理事会	青 森 市
6日(木)	全国漁連(県漁協)・信漁連専務参事会議	東 京 都
10日(月)	青森県漁船保険組合 臨時総代会	青 森 市
12日(水)	全国漁連(県漁協)・信漁連会長会議	東 京 都
18日(火)	本会臨時総会	青 森 市
18日(火)	本会理事会	青 森 市
19日(水)	密漁防止対策全国連絡会議	東 京 都
20日(木)	全国漁業協同組合連合会 臨時総会	東 京 都
24日(月)	2013年度JFグループ購買全体会議	東 京 都

4月	事 項	場 所
19日(土)	西北地区共販推進会議	五所川原市
25日(金)	青森県昆布協会 通常総会	函 館 市
28日(月)	本会業務部担当理事会	青 森 市
28日(月)	本会理事会	青 森 市
30日(水)	青森県資源管理協議会 通常総会	青 森 市
30日(水)～1日(木)	本会監事会、監査会	青 森 市

5月	事 項	場 所
8日(木)	青森県東部海域漁業協議会 通常総会	青 森 市
13日(火)	青森県小型いか釣漁業協議会 通常総会	青 森 市
13日(火)	漁連(県漁協)・信漁連会長ブロック会議	東 京 都
14日(水)	青森県漁協組合長会議	青 森 市
14日(水)	本会役員推薦委員選出協議会	青 森 市
15日(木)	青森県漁場環境保全振興協会 通常総会	青 森 市
16日(金)	青森県乾燥干魚会 通常総会	青 森 市
22日(木)	本会理事会・監事会	青 森 市
22日(木)	本会役員推薦会議	青 森 市
24日(土)	下北地区共販推進会議	む つ 市
26日(月)	青森県原子力施設環境放射能等監視評価委員会	青 森 市
27日(火)	青森県ほたて流通振興協会 通常総会	青 森 市
29日(木)	青森県漁船保険組合 通常総代会	青 森 市
30日(金)	(一社)青森県漁港漁場協会 定時総会	青 森 市
30日(金)	(一社)青森県水産振興会 通常総会	青 森 市

6月	事 項	場 所
3日(火)	青森県栽培漁業振興協会 社員総会	青 森 市
6日(金)	青森県新漁業協同組合運動協議会	青 森 市
9日(月)	青森県漁場監視団連合会 通常総会	青 森 市
10日(火)	青森県漁船海難防止・水難救済会 通常総会	青 森 市
12日(木)	むつ湾漁業青色申告会連合会 通常総会	青 森 市
16日(月)	(一社)日本定置漁業協会 通常総会	東 京 都
18日(水)	本会通常総会・理事会・監事会	青 森 市
18日(水)	青森県漁業経営安定対策本部 通常総会	青 森 市
19日(木)	青森県JF共済推進本部 定例総会	青 森 市
19日(木)	青森県漁業信用基金協会 通常総会	青 森 市
20日(金)	青森県信用漁業協同組合連合会 通常総会	青 森 市
20日(金)	青森県漁業共済組合 通常総会	青 森 市
20日(金)	(一社)青森県ほたて漁業振興基金 通常総会	青 森 市
24日(火)	全国漁業協同組合連合会 通常総会	東 京 都
25日(水)	(公社)青森県漁協経営安定対策協会 通常総会	青 森 市
26日(木)	全国漁青連グループリーダー研究集会	東 京 都
27日(金)	全国漁青連 通常総会	東 京 都

7月	事 項	場 所
1日(火)	春季陸奥湾養殖ホタテ貝実態調査 結果報告会	青 森 市
3日(木)	青森県海難防止強調運動推進連絡会	青 森 市
8日(火)	浜の活力再生プラン及び省燃油活動推進事業説明会	青 森 市
16日(水)	ほたて供養祭	平 内 町
16日(水)	むつ湾漁業振興会 通常総会	青 森 市
28日(月)	青森県さけます増殖流通振興協会 通常総会	青 森 市

平成26年8月12日

〈発行〉青森県漁業協同組合連合会 青森市安方一丁目1番地32号 TEL017-722-4211(代)

〈印刷〉青森コロニー印刷